

日本の金

著者：彌永芳子

定価：2,800 円+税

単行本：240 ページ

出版社：東海大学出版会 (2008/8/1)

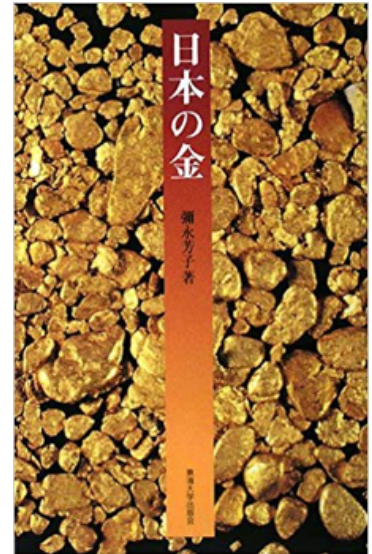
言語：日本語

ISBN-10: 4486017943

ISBN-13: 978-4486017943

発売日：2008/8/1

梱包サイズ：20.6 x 13.6 x 1.4 cm



多くの民族にとって、金は特別の思いを寄せる金属である。日本人も例外ではないが、文献によるとの日本の金の歴史は八世紀の天平年間に始まったといわれ、そうであればまだ 1300 年ほどの歴史しかない。しかしその後は宗教・経済の面から急激に金に対する関心が増大して、日本の金は世界の歴史上重要な位置を占めるに至った。ただ、人間の金力への限りない欲望によって歴史は変遷をくりかえしたようにも思える。繁栄するのも金、国を亡ぼすのも金、歴史をも変える金とは何だろう。餓えを満たすわけでもなく、暑さ寒さを防ぐでもない、ただ黄金色に光り輝くだけで人を魅了し、歴史を変える“黄金”は人だけに対して一種の魔力を持っているのか・・・

この本は日本の金にまつわる様々な歴史を中心に、記録としてきわめて価値が高い。

目次

第1章 砂金史のエピローグ	第9章 日本の金山
第2章 古代から中世の陸奥の砂金史	第10章 松前藩の採金
第3章 戦国時代の金銀山	第11章 北海道の砂金
第4章 佐渡島の金銀山	第12章 北見のゴールドラッシュ
第5章 金銀山は、どう経営（形態）されたのか	第13章 日本の金銀山の変遷
第6章 砂金は儀礼用	第14章 戦前・戦後の鉱山業
第7章 金銀島を求めて	第15章 北海道の金山
第8章 砂金の科学	第16章 北海道の砂白金
	第17章 砂金採取法と砂金掘り道具